

令和7年度 軽井沢町 全国学力・学習状況調査の結果について

【小学校】

国語

平均正答率は66.0%で、全国平均（66.8%）とほぼ同じ、県平均と同じでした。

学習指導要領の内容別でみると、「知識及び技能」のうち「我が国の言語文化に関する事項」、「思考力、判断力、表現力等」のうち「書くこと」において全国平均を上回りました。

「書くこと」では、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することによさがみられます。一方で、「読むこと」において、目的に応じて文章の中から必要な情報を見つけ出す力に課題がみられました。特に「目的に応じた情報の取捨選択」については全国平均を大きく下回っていました。文章中に用いられている図表などが文章のどの部分と結び付くのかを明らかにしたり、文章と図表などの関係を捉えて読んだりする学習活動を充実させることが考えられます。

算数

平均正答率は54.0%で、全国平均（58.0%）、県平均（58%）を下回りました。

学習指導要領の領域別では、「変化と関係」は全国を上回りましたが、「数と計算」「図形」「測定」は全国を下回りました。特に「図形」では全国平均を大きく下回っています。

よい点としては、変化する二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見つけ出す力に成果がみられました。一方で、図形の面積の求め方を説明すること、分数の加法において数量を言葉や数で説明することに課題がありました。今後は、数量関係を言語化・数式化して表現する学習活動を充実させることが考えられます。

理科

平均正答率は51.0%で、全国平均（57.1%）を下回りました。

「エネルギー」と「生命」の領域に課題がみられます。特に乾電池の直列に関する知識、種子の発芽実験における制御や共通点・差異点を見出す力が全国平均を大きく下回りました。今後は、実験を通して観察・考察する学習場面を多く設定することが考えられます。

【中学校】

国語

平均正答率は54.0%で、全国平均(54.3%)とほぼ同じ、県平均(55.0%)をやや下回りました。

学習指導要領の観点別でみると、「知識及び技能」は全国平均を下回り、「思考力、判断力、表現力等」は全国平均を上回りました。

「話すこと・聞くこと」においては、相手の反応を踏まえながら、自分の考えを分かりやすく伝えるように表現を工夫することや、「書くこと」において、書こうとする内容の中心が明確になるように、文章の構成や展開を考えていくことによさが見られました。文章中で間違っている漢字を正しい漢字に修正することや正しい漢字を選択することや、文章の構成や展開について根拠をもとに考えを述べることに課題が見られました。端末機器使用時でも、漢字がもつ意味に注目したり、文章がなぜこのような構成になっているのかを自分なりに意味づけしたりすることが考えられます。

数学

平均正答率は44.0%で、全国平均(48.3%)、県平均(46.0%)を下回りました。

観点別では、「知識及び技能」は全国平均(54.4%)を下回り、「思考力、判断力、表現力等」も全国平均(39.1%)を下回りました。

よい点として、表やグラフから必要な情報を適切に読み取ることなど、数量や図形の変化に着目して関係を見出す力に一定の成果がみられます。一方で、素数を選ぶことなど、数学用語の意味の理解や、問題の条件を整理し、筋道を立てて解決する力に課題があります。今後は、数学的な見方や考え方をもち、思考過程を言葉や式で説明する学習活動を一層充実させることが考えられます。

理科

身近な自然現象に対する分野では、よさが見られましたが、他分野での「思考力、判断力、表現力等」では、課題が見られました。

観察・実験の結果を根拠として考察を行うこと、また結果を他の事象と関連づけて説明する力の育成が求められると考えます。今後は、実験を通して仮説→検証→考察の過程を意識した学習活動を継続的に行う必要があります。